

まちづくり推進組織の会議記録

会議の名称	第8回（平成18年度第2回）かごしままちづくり会議
開催日時	平成18年7月28日（金）14：00～15：57
開催場所	市役所東別館11階 1101会議室
出席者 （委員）	委員15名、市職員8名 宮廻会長、津曲副会長、西園委員、時村委員、今別府委員、四元委員、槐島委員、岩元委員、岡本委員、武委員、永山委員、奈良迫委員、西委員、前田委員、山本委員
（市職員）	新地企画部長、宇治野企画部参事、中園企画調整課主幹、久保観光課長、奥農政総務課長、塘生産流通課主幹、その他関係職員
傍聴者数	0名
事務局	鹿児島市企画部企画調整課
会次第	<p>1 開 会</p> <p>2 報 告</p> <p>（1）副会長について</p> <p>（2）第7回（平成18年度第1回）かごしままちづくり会議における意見等の検討状況について</p> <p>（3）第7回（平成18年度第1回）地域まちづくり会議等における意見等の検討状況について（全市的な事項）</p> <p>（4）第8回（平成18年度第2回）地域まちづくり会議等について</p> <p>3 協 議</p> <p>（1）テーマ協議</p> <p style="padding-left: 2em;">（主）観光・コンベンション、農林水産業</p> <p style="padding-left: 2em;">（副）商工業、交通ネットワーク</p> <p>（2）その他協議</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉 会</p>
会議の概要	<p>1 開 会</p> <p>2 報 告</p> <p>（1）副会長について</p> <p style="padding-left: 2em;">○ 会長から、先の会議で副会長に津曲委員を推薦することを確認していたが、本人の了解が得られた旨を報告。</p> <p>（2）第7回（平成18年度第1回）かごしままちづくり会議における意見等の検討状況について</p> <p style="padding-left: 2em;">○ 事務局から、第7回（平成18年度第1回）かごしままちづくり会議における意見等の検討状況について説明。</p> <p>（3）第7回（平成18年度第1回）地域まちづくり会議等における意見等の検討状況について（全市的な事項）</p>

- 事務局から、第7回（平成18年度第1回）地域まちづくり会議等における意見等の検討状況のうち全市的な事項5件について報告。
- （4）第8回（平成18年度第2回）地域まちづくり会議等について
 - 事務局から、第8回（平成18年度第2回）地域まちづくり会議等の概要について報告。
 - 委員から、地域内の施設について条例規則で制限されているとの回答は分かるが、もう少し柔軟な利用ができるようにと要望している。また合併前の福祉アドバイザー制度はボランティアグループが代わりに担うという事で廃止されたが、以前ほどのケアは行われていない様子。地域の現状を見ながら、例えば特区的な考え方で一定期間条件を緩和して実施・検証してみてもいいのではとの発言。また、市の各組織を横断的にまたがり市民の声を反映させる担当者を置いてみてはとの補足説明あり。
 - 事務局から、各支所内の実情について調査を行った上で特区的発想での提案を行ってもらい、打開策があるのか検討していけたらと思うとの発言。
 - 委員から、吉野に新しくできる高齢者福祉センターについても、利用者を高齢者に限定せず柔軟な利用ができるように検討してほしい。また福祉アドバイザー制度のような旧町にあって市にない良い制度は、市が取り入れてもいいのではとの発言。
 - 会長から、合併時にはある程度制度を統一すべきということだったが、それぞれの地域の実情に応じた柔軟な対応も必要ではないか。良い制度なら全市的に広げていけるように、条例改正も踏まえ弾力的対応をしてみてもどうかとの発言。
 - 委員から、子どもの安全対策のための様々な組織の活動にボランティアとして協力したい住民は多いが、どこに相談すればよいか分からないのが現状。住民がこれらの活動に参加しやすい組織作りが必要だとの補足説明あり。

3 協 議

（1）テーマ協議

- 委員から、既存の自然や施設を生かしたハード・ソフト両面の整備が必要であるとの発言。
- 委員から、地域資源を活用するために、観光ボランティアや語り部などの人材活用が必要であるとの発言。
- 委員から、グリーン・ツーリズムを促進するためにも、喜入の森に市民農園と宿泊施設を充実してほしいとの発言。
- 委員から、地方で農業をしたいと考えている退職者に向けて、休耕地の活用をPRしてほしいとの発言。
- 委員から、耕作放棄地が増加しているのに、営農をシステム化して、高齢者だけの農家や後継者がいない農家を支援できないかとの発言。
- 委員から、合併後の地域情報の発信について、市広報等に掲載される事で多くの市民に周知されるプラス面と、地域に根ざした小さな情報の収集が難しく

なったマイナス面を感じる。観光面の情報も含めてもっと地域に根ざした情報を広く発信していくべきとの発言。

○ 委員から、県外大手企業の鹿児島進出が見込まれる中、これからは一次産業と二次・三次産業とのリンクが重要になってくる。これまでPRが主体だった観光行政においても同様に農業とのリンクが必要で、合併により地産地消における消費ベースが増えたことを利用して、もっと農業の付加価値を高められないかとの発言。

○ 委員から、地産地消につなげるためにも、身近すぎてその良さに気付いていない場所を見つめ直してピックアップし、観光ツアーのルートにできたらいいとの発言。

○ 委員から、鹿児島の玄関口である鹿児島中央駅に、もう少し鹿児島らしさを感じられるシンボリックなものを整備してほしいとの発言。

○ 委員から、地産地消の推進のため、商品に生産者の表示を行う働きかけをスーパーなどに指導できないかとの発言。

○ 委員から、観光客が鹿児島に到着した後に選べるオプションツアーのようなメニューが乏しいので、グリーン・ツーリズム的なものを含め、鹿児島の特徴をうまく盛り込んだツアーをコーディネートして、場所や情報の提供をしてほしいとの発言。

○ 委員から、グリーン・ツーリズムの受け入れ住民へノウハウを伝授するなどの支援を行い、受け入れる環境・体制を整備してほしいとの発言。

○ 委員から、市外の方から見た鹿児島観光のメインは歴史と自然ではないか。合併により自然財産も増えたのだから、自然を全体的に捉えた形で観光につなげてほしい。城山についてももっとあたたかみのある感じで整備して、桜島の眺望との一体的な観光化を図ってほしいとの発言。

○ 会長から、今回は主テーマを商工業、交通ネットワーク、副テーマを観光コンベンション、農林水産業として協議することを説明。

4 その他

○ 事務局から次回会議は10月頃の開催を予定しているとの発言あり。

5 閉会

=以上=